

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000085		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	認知症対応型グループホーム 常盤 あやめ		
所在地	豊橋市宮下町1番地の1		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

特養、デイ、グループホームがひとつの建物の中に存在し、本人様やご家族様の状況に合わせて施設を選んだり、移動する事が連携して出来ることに心がけています。医療面では月2回の回診があり、協力病院との連携もとれており、安心、安全なサービスが提供できます。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392000085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392000085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、特別養護老人ホームとデイサービスを併設した複合型の事業所でもある。併設事業所と合わせた行事が行われており、利用者の参加も行われているが、日常的な食事作りや季節に合わせた外出行事等、ホーム独自の取り組みも行われている。運営推進会議の際には、様々な分野の方に出席をお願いしていることもあり、多くの方の出席と協力が得られている。会議を通じて、出席者に特養やホームの現状を知ってもらうとともに、会議で出された意見等を運営に反映できるように、外部の方に講師をお願いした講習会等の時間もつくっている。今年度からの新たな取り組みとして、地域の方に向けた「オレンジカフェ」の取り組みを始めている。カフェを通じて、地域の方にホームに来てもらうことで、地域のニーズを把握し、事業所全体で支援に結び付くような取り組みを行っている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年1月8日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「みんなの力で、みんなの幸せを。」の理念と、山本理事長の「認知症介護の三原則」のもと、職員は業務に取り組んでいる。また、事務所と各フロアに掲示し、毎朝唱和している。	法人内の事業所共通の基本理念のもと、職員間で理念を唱和することで、職員間の共有と実践につなげており、ホーム内に理念の掲示が行われている。また、今年度より専用のユニフォームがつけられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度よりオレンジカフェを月1回開催している。毎回多くの地域の方が参加して下さり、交流している。また、毎朝の施設周りの掃除等を行い、近隣の方とは挨拶をする関係築いている。	地域の方とは、事業所全体で取り組んでおり、今年度より「オレンジカフェ」を毎月開催しており、地域の方が定期的に訪問する機会がつけられている。また、中学生や高校生の受け入れも行われており、地域貢献にも取り組んでいる。	今年度からの取り組みである「オレンジカフェ」を通じて、地域の方の訪問の機会が増えている。可能な範囲で活動を継続しながら、地域貢献につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、事例検討を行なった。今後はオレンジカフェも活用し、さらに周知活動ができるとう良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、地域の方、ご家族さまにも出席して頂き、状況や活動報告を行なっている。	会議は特養との合同で開催されており、多くの方に参加を呼びかけ、協力が得られている。また、会議では、毎回様々な方による講習会等の機会をつくり、話し合いを通じて運営に反映できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者の方とは、随時連絡を取り相談に乗って頂いている。また、運営推進会議での勉強会の講師をお願いしている。	市担当部署とは、併設の特養を通じて情報交換等を行っているが、市の講習会等には、ホームからも職員が出席している。また、市の介護相談員の訪問も得られており、運営推進会議等への出席も得られている。	地域包括支援センターとの連携、協力を深めながら、事業所全体で取り組んでいる地域貢献活動等につながることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全性を考慮して玄関やエレベーターには施錠がある。ユニット間は自由に行き来している。どのようなことが拘束にあたるのかをよく話し合い、拘束をしないケアを意識している。	身体拘束を行わない方針のもと、ユニット間の移動は自由であり、利用者が圧迫感を感じないような取り組みが行われている。また、法人で研修会の機会がつけられており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する研修会に参加し、知識を学ぶと同時に、入浴時や着替えの際には身体の確認を行い、施設全体で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議で成年後見制度について学ぶ機会を設けた。 後見制度を利用されている入居者さまもいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申し込み前に、施設内の見学をしていただき、雰囲気、料金等納得された上で申込書の提出をしていただいている。入居時に再度詳しい説明をさせていただき、契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に苦情の窓口について説明を行なっている。また、年に1度、無記名でのアンケートをご家族さまに行なっていただき、その集計をもとに改善していくよう努めている。	併設事業所と合同で行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、家族との交流の機会につなげている。法人で独自のアンケートを通じた、家族からの要望等の把握にも取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	ホームでは、併設事業所とも連携して家族との関係づくりに取り組んでいる。行事等への家族の参加の機会は限られているが、活動を継続することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議にて、意見や提案する機会を設けている。また、管理者が必要と判断した場合には個別の面談にて意見や提案を聞く機会を設けるようにしている。	毎月の職員会議の他にも、日常的にも申し送りの時間を通じた意見交換も行われており、現場職員からの意見等の把握に取り組んでいる。また、法人では年1回、現場職員から法人代表者に向けた手紙を出す取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の状況を見て、法人内の異動等その職員に合った環境や条件の整備をしている。年に1回、法人代表へメッセージを届ける機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内にはさわらび大学があり、認知症のことや医療のこと、様々な内容を学ぶ機会がある。個々の能力やレベルに合わせた研修により多くの職員が参加できる機会が増えた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	豊老協へ参加しており、職員交流が行われた。今後、より多くの職員が交流会へ参加できる機会があればよいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の思いや不安を受け止め、安心して頂く事からご本人さまの状況を理解する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	最初の関わりを大切にする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	少しずつ短時間でも一緒に過ごすなど、徐々に馴染んでいく工夫をする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者さまと「お互いさま」という気持ちや「感謝」という気持ちを共有できる関係を築いていく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	共に支えあう姿勢で、一緒に考えていける自然な人間関係を目指している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	繋がりを継続できるようにしたい	入居前からの友人、知人との交流を継続している方がおり、ホームからも関係継続につながる支援にも取り組んでいる。また、家族との交流の機会もつくられており、家族と食事や買い物に出かけたり、親族の葬儀に出席する機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者さま同士の関係、個性をうまく引き出し、活かす努力をしたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用期間のみの関わりではなく、長期継続的に関係性の基盤		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何をしたいか、誰に会いたいかを理解するためのアプローチの大切さ。 ご本人さまの考えを把握。 コミュニケーションと日頃の接し方で、その方の気持ちを聞きだす。	職員は担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、毎月の現状に関する報告を行うことで、利用者の意向等の情報の共有につなげている。また、アセスメントについても、定期的な見直しが行われており、一人ひとりの把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の具体的な情報を伝えて頂けるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムを把握しています。 (体調の変化など)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の視点、それぞれの意見を出して、どうすれば利用者さまにとっていいか考えている。 カンファレンスなど話し合ったり、状況を伝え、検討する	介護計画は、基本3か月毎に見直しが行われており、モニタリングについても3か月毎に行われている。また、職員は日常的にもチェック表を活用した記録を残すように取り組んでおり、介護計画の内容の把握と支援への反映につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきを報告し、介護計画の見直しに活かす。(情報を共有する)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要な時に必要なサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の人や、場の力を借りて取り組みを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	適切な医療を受けられるよう支援している	関連医療機関の医師の訪問診療の他にも受診支援が行われており、急変時等の対応も行われている。また、今年度より、ホームに看護師が勤務する体制がつくられており、日常的な利用者の健康チェックや情報提供等の取り組みが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療時に適切な診察(問診)を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族等とも協働し、医療機関と三者一体となっていく体制づくりをしている	関連医療機関に重度の方にも対応できる体制がつくられていることもあり、ホームでの看取り支援は想定していない。家族とは、利用者の段階に合わせた話し合いが行われており、関連の医療機関や特養への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に行っていないため、今後は勉強会など検討していきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回訓練を行なっている	避難訓練については、併設の特養との合同で行われており、非常災害時の職員間の連携につなげている。また、事業所全体で地域の方との協力関係づくりにも取り組んでおり、地域の方の支援を想定した備蓄品の確保も行われている。	事業所で発電機を確保する等、地域の方への支援も想定した準備を行っていることもあるため、現状実施している地域貢献活動を継続し、地域の方との協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で気遣いあってプライバシーの損ねない対応をしている。 利用者さまに対し、敬意をもった言葉掛けを行なうよう気をつけている。	職員間で日常的に唱和している法人の理念でもある「認知症介護の三原則」に則りながら、職員は利用者の尊厳に配慮するよう取り組んでいる。また、研修会の実施の他にも、日常的な注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人さまに尋ねてから決定するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の希望を優先し、体調を考慮しながら、その人らしく過ごして頂くよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人さまに衣服の選択をして頂き、汚れた際は交換して頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の後、下膳を行なって頂いている	食事については、ホーム職員により調理され、利用者も片付け等の出来ることに参加している。季節や誕生日会等に合わせた食事を提供する取り組みも行われている。また、外食の機会もつくられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入浴後、毎食時の水分補給や、個々の状態に合った食事支援をしている。 食欲不振時には丼を提供するなどし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食前の口腔体操や、毎食後歯磨きの声かけを行い、定期的に義歯薬を使用するなど、口腔ケアを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のリズム(個人)を把握し、定時にトイレ誘導を行なうなど、自立に向けて努めている。	利用者全員の排泄状況を記録に残し、職員間で情報を共有しながら、基本トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者の中には、職員の声掛け等の支援を通じて、パンツで過ごせるようになる等、現状を維持できている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個別のチェック表にて確認し、水分補給を心掛けている(ポカリ、お茶ゼリー等)。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ご本人に入浴希望を伺い、楽しく気持ちよく入浴していただけるよう努めている	入浴については基本平日に実施しており、利用者の状況等に合わせた入浴についても対応するように取り組んでいる。また、ホームの浴室には、個浴の他にも機械浴が設置されており、重度の方も入浴できる設備が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	穏やかな気分で日中過ごして頂けるように努め、日中はなるべく入眠しない声かけやレクリエーションを行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	表にして、2人で確認し服薬支援と症状の変化に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器洗い、洗濯物を干していただく、たたんでいただく、ゴミ捨て、掃除等、声掛けに行っており、おやつは希望を聞きながら提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	公園や喫茶店まで散歩をしたり、お誕生日会にて外食の機会を作ったりしている	ホームでは、季節の良い時期には、近隣の散歩等で外出するよう取り組んでいる。また、職員間で外出に関する行事計画を立てながら、季節の花見や外食を行う等、利用者の楽しみをつくるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとして事務所で保管し、買い物等の外出時に職員が預かりのもと使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、ご家族さまへ電話を掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	危険と思われる物は置かず、 壁紙は季節感(四季)が出るよう工夫している	ホームのリビングはゆったりとした広さを確保している他、建物の3階に開設されていることで採光にも優れた環境でもある。また、通路の壁には、季節に合わせた飾り付けを行う等、利用者に季節を感じてもらおう配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを観て頂く際はソファーに座って頂き、 談笑時はテーブル席へ移動して頂くなど、 声掛けにて対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具が置いてあり、転倒がないよう配置にも配慮している	利用者の希望や身体機能に合わせた居室づくりが行われており、ベッドの位置をトイレに近くになるように配置する等、利用者が過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。また、馴染みのある家具類の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	心身機能に焦点をあて、要因を考えている		